

Vol.29

〈発行日〉
令和5年1月1日

松下ゆきよし

県政活動レポート

発行責任者／愛媛県議会議員 松下行吉 連絡先／〒791-2141 伊予郡砥部町岩谷口135 TEL (089) 969-3605

謹賀新年

旧年中は、格別の御厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

早いもので県議会議員となつて8年になろうとしています。その間、中村県政の重点施策「自転車新文化創造」の象徴ともいえる「サイクリングしまなみ」に毎回挑戦しています。瀬戸内の絶景を眺めながら高速道路を疾走するこの大会、2014年から始まり2年毎に開催、地域の方々やボランティアスタッフの心温



まるおもてなしもあつて人気のサイクリング大会に育っています。

昨年は、コロナ禍で中止された2020年大会を挟んで4年振りの開催でした。私は30キロコースにエントリーし、無事完走。ただ、2016年110キロ、2018年70キロ、2022年は30キロと年齢に合わせてのコース選択。無難と言えば無難ですが、多少の寂しさもあります。

働いた 手のふくらんで 初湯かな



スタート前には“ダークみきゃん”
と“みきゃん”も応援に来ました。

10月30日に開催されたサイクリングしまなみ2022。来島海峡サービスステーションから出発して、来島海峡大橋を渡っています。逆風ですが、まだ元気です。

令和4年12月県議会の概要

中村県政4期目のスタートとなる定例県議会は、12月2日開会し15日間の会期を終えました。4会派の代表質問と一般質問では、公約実現に向け、た今後の県政運営について質問が集中しました。そのほか我が会派（志士の会）の鈴木議員（四国中央市）が、四国電力の伊方原発安全対策に対する姿勢について知事の考え（注1）を質問し耳目を引いています。

可決議案は、条例7、補正予算6、人事3、意見書1、その他12。そのほか交通事故等による損害賠償額（3件）の報告がありました。なお、『反撃能力』保有、増税提言を受け入れず、外交で東アジアの平和に寄与する政治を求める請願」ほか3件の請願を不採択としました。

1 条例

人事委員会の勧告に基づく職員の給与を改定するための関係条例の改正や、こどもの城の木製アスレチック遊具利用料金を追加するこどもの城

管理条例の改正などです。そのほか個人情報保護法の改正に伴い次のように条例の整備をしました。

（改正） 県情報公開条例、県消費生活条例など

（廃止） 県個人情報保護条例

（制定） 県議会個人情報保護条例、個人情報保護法施行条例

（注1） 質問の背景

令和4年10月四国電力が外資系高級ホテルを、高松港周辺の「サンポート高松」に誘致する計画が報道されました。伊方原発では（使用済み核燃料を構内で一時保管する）乾式貯蔵施設など新しい問題も出てきており、今まで以上に安全対策に資力を注ぐ必要があります。そういった中で、四電が大規模な観光事業を行うことに疑問の声があり、この質問となっています。これに対して、中村知事からは「原発の立地により、安全・防災対策など多くの業務や多額の財政需要が発生している。安全対策の観点で財源問題も議論する必要があるのではないか」と、2024年1月に有効期限が満了する県核燃料税の更新について、含みを持たせる答弁がありました。

2 補正予算

12月補正予算は、国の総合経済対策の裏付けとなる第2次補正予算が成立したことを受けて追加提案があり、補正予算の総額は一般会計が519億6,609万円、企業会計が2億8,487万円と12月補正予算としては今までにない規模となります。

した。なお、このうち一般職員と特別職の給与改定に伴う増額は13億8,618万円（表2）です。

表紙俳句について
「東京やなぎ句会」の中で、民族芸能評論家の永井啓夫（2006年没）が発表した俳句。同句会は、1969年に永六輔、小沢昭一等によって結成された俳句同好会。（敬称略）

【表1】 12月補正予算の概要

一般会計 119億 233万円 企業会計 2億 1,183万円

1 新型コロナウイルス感染症への対応	84億 134万円
2 物価高騰に伴う県内消費への影響緩和策	10億4,092万円
3 当面する課題への対応	12億8,572万円
4 人事委員会勧告に基づく給与改定	13億8,618万円

【表2】 12月補正予算 給与改定経費

1 一般職 13億 8,295万円
（一般会計 11億 7,118万円 企業会計 2億 1,177万円）

区分	職員数	予算額
一般会計	2万1,453人	11億 7,118万円
一般職員	4,233人	2億 4,478万円
警察職員	2,882人	1億 8,326万円
学校職員	1万 1,652人	6億 9,973万円
会計年度任用職員	2,686人	4,341万円
企業会計	2,838人	2億 1,177万円
一般職員	2,111人	1億 8,606万円
会計年度任用職員	727人	2,571万円

2 特別職 323万円（一般会計 317万円 企業会計 6万円）

▼物価高騰等の対策

40億4,547万円

中小企業者や農林水産事業者、医療・福祉関係者、生活再建に取り組む世帯、出産や子育て中の方々を幅広く支援します。(主な事業は次のとおり)

○住民税の非課税世帯やひとり親世帯

帯などに県独自で給付金を支給

(1億8,122万円)

○出産・子育てでできる環境づくりに向け、面談等の伴走型相談支援と、出産育児関連用品の購入助成等の経済的支援を一体的に実施する市町に交付金を支給

(9億8,867万円)

○小事業者等による省エネ・省コストや生産プロセスの改善など物価高騰を乗り越えるための生産性向上に資する設備投資(事業費総額200万円以上)を支援

(4億8,600万円)

○公共交通・運輸事業者の中長期的な省エネ対策を支援

(4億2,986万円)

○新規就農者に対する資材価格高騰の緊急支援や、施設園芸の燃油高騰対策緊急支援

(4,898万円)

○原木生産(伐倒から運搬まで)に要する燃料費や、コンテナ苗生産に要する資材の高騰に対して支援

料費や、コンテナ苗生産に要する資材の高騰に対して支援

(1億4,031万円)

▼新型コロナウイルス感染症への対応

117億8,366万円

○重点医療機関等における感染者の病床確保に係る協力金や、入院管理が必要な感染者の受入れに係る後方支援協力金等の支給

(50億3,772万円)

○感染者の診療・看護及び感染確認検査のための検体採取業務等を行う医療従事者等に対する応援手当金

(5億6,037万円)

○県立学校に衛生用品や換気に必要な備品を整備

(7,244万円)

○県内宿泊旅行への割引や地域限定クーポンの発行など「えひめぐりみきゃん旅割」の販売を継続

(32億2,028万円)

など

▼子どもの安全・安心の確保

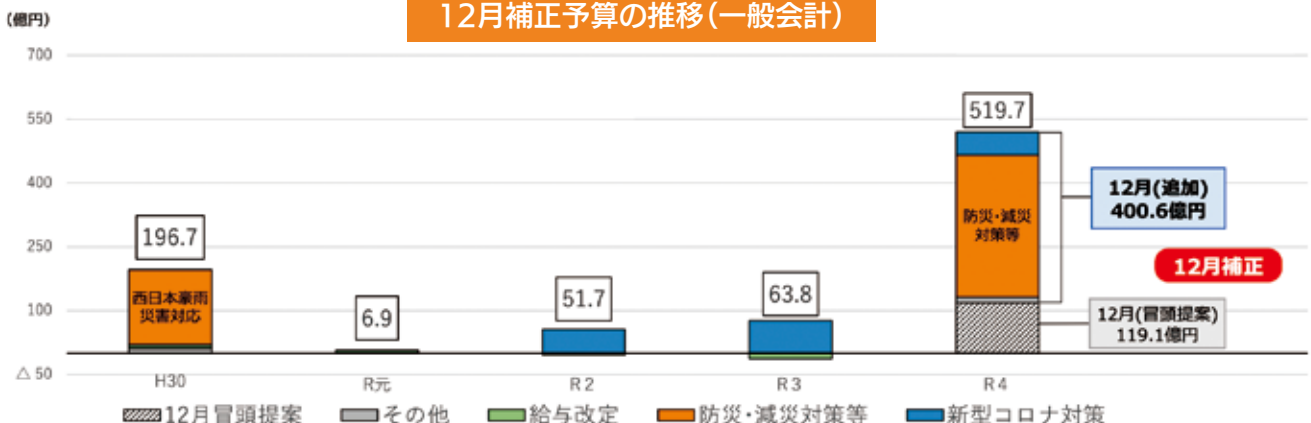
3億218万円

送迎バス内に取り残された園児の死亡事故を受け、送迎バスの安全装置設置や、登園管理システム等の導入を支援します。



議会最終日(12月16日)、農林水産委員長として委員会の審査状況を報告

12月補正予算の推移(一般会計)



▼防災・減災対策等の推進

334億4,775万円

国の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」等を活用し、次の様な事業を行います。(主な事業は次のとおり)

○ 肱川水系治水対策における肱川激特事業と河川の豪雨対策など
(121億3,410万円)

・ 道路整備や橋りょう補修等の老朽化対策 (70億1,231万円)

・ 土砂災害防止施設の整備

(49億2,210万円)

・ ため池や農道等の農業基盤の整備

(19億959万円)

・ 交通安全施設の整備

(4億6,552万円)

▼当面措置が必要な経費

12億8,572万円

○ 4月29日任期満了となる県議会議員の選挙費 (9億1,180万円)
○ 県試験研究機関等の機能強化に向けた設備・機器の整備 (4,670万円)

○ 宇和特別支援学校にスポットエアコンや大型電気陶芸窯等を整備

(1,369万円)

3 人事

▼ 県土地収用委員会委員

加地雅臣さん (再任)

芥川秀海さん (新任)

任期は令和5年2月から3年間

▼ 県土地収用委員会予備委員

佐川義則さん (再任)

任期は令和5年2月から1年間

4 意見書 (1件)

森林・林業基本計画の推進と林野関係予算の確保・拡充を求める意見書

5 その他

(1) 令和5年度の当せん金付証券(宝くじ)の発売限度額(132億9000万円)の決定

(2) 工事請負契約の締結(金額は消費税抜き) 承認

○ 宇和島港榑崎大橋(住吉町) 上部工工事

請負人 川田工業株式会社四国営業所

請負金額 17億5,967万円

(落札率92.9%)

日感 日雑

(わなな)く「狼狽(ろうた)える」

▼ 近頃、読めない漢字が多くなったと思いませんか。たとえば「躊躇(たためら)う」「戦慄(せんりつ)する」

など。ただ、このような漢字もパソコンを使えば難なく使いこなせます。パソコンやスマートホンの日本語入力システムは、格段に進歩しました。短文をかなで入力すれば、前後の文脈から適当な漢字に変換してくれますし、使い方で表示してくれるので、辞書を引くこともほとんどありません。▼ 日本語入力システムの先駆者は、1979年に徳島市で創業したコンピュータ販売会社ジャストシステムです。同社が開発した日本語入力システム「ATOK(エートック)」は、辞書機能で使用頻度の高い単語から表示するなど使いやすさを追求し、幅広いユーザーを獲得しました。ATOK誕生までの秘話は、創業者の浮川和宣氏が日本経済新聞社の「私の履歴書」の中で語っています。▼ 英語は、アルファベット26種類、大文字、小文字があるとしても52種類の記号で言葉が出来る上があります。日本語には、ひらがな、カタカナ、漢字があります。常用漢字でも2千以上です。印刷に向かない言語と言えます。印刷は世界

の3大発明の一つと言われるように、社会システムの発展を支える基盤です。私たちの先人も、活版、写植、謄写版、邦文タイプと日本語印刷の機械化・効率化に取り組んできました。▼ 日本語入力システムは、まだまだ改良されて使い勝手が良くなるでしょう。そして、残念なことに私たちは情報機器に頼らなければ、漢字を「書けない」「読めない」ようになります。文化庁が実施している国語世論調査で、「情報機器の普及で漢字を正確に書く力が衰える」と9割が回答していました。時たま紙の辞書を開くと、何とも表現できない安堵感を覚えます。



昭和の終わり頃まで、印刷業で使われていた和文タイプライター。文字盤から一つ一つ活字を拾い出します。

【表3】総合経済対策関係の追加補正予算
一般会計 400億 6,376万円 企業会計 7,304万円)

1 エネルギー価格・物価高騰への対応	30億 455万円
(1) 低所得世帯や子育て世帯への支援	11億6,989万円
① 低所得世帯緊急生活支援事業費	1億8,122万円
② 出産・子育て応援事業費	9億8,867万円
(2) 医療・福祉施設への支援	4億3,517万円
① 医療・福祉版応援金事業費	4億3,517万円
(3) 中小事業者等への支援	9億1,586万円
① 物価高騰対策設備投資支援事業費	4億8,600万円
② バス・トラック等省エネ対策支援事業費	4億2,986万円
(4) 農林水産事業者への支援	4億8,363万円
① 新規就農者緊急支援事業費	3,838万円
② 施設園芸燃油高騰対策緊急支援事業費	1,060万円
③ 原木乾しいたけ生産環境改善支援事業費	1,022万円
④ 木材生産緊急対策支援事業費	1億4,031万円
⑤ 酪農・肉用繁殖農家緊急生産支援事業費	7,740万円
⑥ 漁業用燃油・飼料高騰対策緊急支援事業費	2億 672万円
2 子どもの安全・安心の確保	3億 218万円
① 幼児教育施設等送迎バス安全対策事業費補助金	2億5,200万円
② 特別支援学校等スクールバス安全対策事業費	720万円
③ 公立学校スクールバス安全対策事業費補助金	4,298万円
3 新型コロナウイルス感染症への対応	33億8,232万円
① 感染症対応医療機関体制強化事業費	8,960万円
② 県立学校感染拡大防止対策事業費	7,244万円
③ 全国旅行支援事業費	32億2,028万円
4 防災・減災対策等の推進	334億4,775万円
① 土木施設の防災・減災対策	
道路整備や橋りょう補修等の老朽化対策	70億1,231万円
土砂災害防止施設の整備	49億2,210万円
盛土規制法の施行に伴う基礎調査の実施	5,147万円
	など
② 農林水産施設の防災・減災対策	
ため池や農道等の農業基盤の整備	19億 959万円
林道、森林、治山施設等の整備	17億1,729万円
	など
③ その他	
交通安全施設の整備	4億6,552万円
豚熱の検査体制の強化	1,179万円
	など

(落札率 92・1%)

請負金額 12億5,180万円

(4) 土木建設工事の負担金額変更の決定

請負金額 5億2,481万円

業体

34億7,300万円の承認

請負人 株式会社愛橋

請負人 大和・愛媛・大進共同企

愛媛県一般会計補正予算(第4号)

岩松)建設工事

辻)新築工事

(3) 10月18日専決処分した令和4年度

算4件の認定

○県道嵐田之浜岩松線巽橋(津島町

○公営住宅北条地区(第一期 北条

(落札率 98・7%)

(5) 継続審査となっていた令和3年度決

私の本棚

晴走雨読

せいそううどく

愛媛県政二十年

著者：今井 琉璃男 出版：若葉社



1945（昭和20）年8月15日の玉音放送。ここから新しい日本が生まれ、私たちは民主政治と地方自治を手にしました。この「愛媛県政二十年」は、長年戦後愛媛県政の現場取材してきた今井琉璃男（注2）氏が、地方自治揺籃期（ようらんき）の県政を記録に残そうと、1965（昭和40）年9月から同年12月にかけて愛媛新聞紙上に連載した「愛媛県政20年」に加筆、補正を加えて出版されたものです。

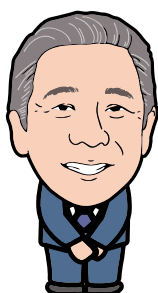
終戦から20年、愛媛県には強面（こわもて）で人間味豊かな政治家が次々と登場。財界や県庁職員にも優秀かつ個性的な面々がそろい、発展する経済を背景に活発に活動。多くのドラマが生まれ、日本の自治の縮図でした。例えば1960（昭和35）年12月17日から67日間にわたった、県議会のふたたび議長騒動。自民党県議団の分裂に端を發したこの事件は、県内政財界の長老や、現職国会議

員が調停に立つてやっと解決しています。そのほかにも副知事廃止条例を制定して副知事の首を飛ばしたり、県職員・教員の勤務評定を他府県に先がけて実施し教員組合をつぶしたりして、全国の注目を集めました。

著者は、県政担当記者として収集、蓄積した資料を基にして、これら事件の秘話やエピソードを披露しています。中には辛辣な人物評も多々みられます。発刊当時には存命の方もおり、物議を醸したのではないのでしょうか。ただ、全体をとおして、公正な記者の目で県政を追い、新生愛媛県の発展を願ってきたことが読み取れます。最終章「二十年の回顧と今後」は、「愛媛県政二十年、結局人から出て人に帰結した歴史であった。政治の向上、愛媛の発展を、日本の自治の発展を願うとき、われわれの運命を託する政治家の眞贋（まが）をみわけることこそ喫緊の要務である」と、有権者である県民に県政発展を託して結んでいます。

（注2）今井琉璃男（いまい りお）／1928（昭和3）

年松山市生まれ。1952（昭和27）年松山商科大学卒。1950（昭和25）年愛媛新聞社入社。社会部長、専務取締役編集局長、代表取締役社長、代表取締役会長を歴任。2022（令和4）年9月没、享年94歳。（敬称略）



愛媛県議会議員

松下行吉 まつした ゆきよし

〒791-2141 愛媛県伊予郡砥部町岩谷口 135

TEL 089-969-3605 FAX 089-969-3606

Email : matsushita31@iyo.ne.jp

<http://www.iyo.ne.jp/matsushita31/>